



祐介の目

No.145

大田祐介 (福山市議会議員)

や下水道管への侵入、落ち葉が排水溝を詰まらせる、電線や標識との干渉、最悪は倒木により死者が出るケースだろう。この功罪を考慮したマネジメント方針はぜひ福山市も取り入れるべきと

街路樹と除草剤

ビッグモーター店頭の街路樹問題、実は私も市民から街路樹を切つて欲しいとい相談を受けたことがあるが、断つた経験がある。福山市は元々センダン、銀杏、プラタナス等を植えていたが、落葉する前に「強剪定」を行い、ほとんど丸坊主状態にしてきた。その姿は痛々しいが、落ち葉による市民の苦情から仕方なく行っている。現在、ヤマボウシ等に植え替えを進めているが、この夏の猛暑により多くの樹が枯れてしまった。皆様、ぜひ我が家の前の街路樹に水をやってください。

「杜の都」仙台市には街路樹マネジメント方針があり、街路樹は景観向上、環境保全(生活環境・自然環境・地球温暖化緩和)、緑陰形成、交通安全(遮光・視線誘導)、防災(延焼防止)等の機能を有しているとされている。しかし、デメリットも多数あり剪定の費用増加、根が張り歩道の隆起

考える。

さて、ビッグモーターの件で除草剤には街路樹を枯らす程の毒性がある事がわかった。ホームセンターに行けば除草剤が山積みしており、多くの方が何の疑問も無く使用しているように感じる。しかし、除草剤のルーツはベトナム戦争で使用された枯葉剤だ。主成分はダイオキシソシン類であり、その後遺症で有名なのが下半身結合双生児ベトちゃん・ドフちゃん。枯葉作戦から半世紀過ぎた今でもベトナム人はもちろん、アメリカの退役軍人等多くの方が後遺症で苦しんでいる。現在の除草剤の主成分であるグリホサートは発がん性の有無を検証中であり、国によっては既に使用が禁止されている。

年々合理的な考えが進む中、残念ながら街路樹不要の声や除草剤の使用量は増加しているように感じる。街路樹を切り、除草剤を大量にまけば後世の子孫に大きなツケを残す気がしてならない。